


第11回放送 美女と野獣

1. それぞれのライトモチーフ

この作品では、主要なキャラクターはそれぞれ決まったモチーフをもっていて、ナンバーだけでなく場面転換や序曲などオーケストラのみのシーンでも実に巧妙に絡みあい全体を構成しています。まずは、それぞれの実例を見てみましょう。


(1) ビースト

Bt 1




あわれなやつめ

Bt 2



こうしたさだめに


Bt 3



あいなじに


(2) ベル

Bl 1




ああなんてすてき

Bl 2




ぎめたのよ

Bl 3



たとえちからで


Bl 4 『変わり者ベル』の間奏




↑ 『何かが変わった』で使用

(3) ビーストとベル

Bt/Bl 1 『美女と野獣』の前奏



Bt/Bl 2



ひはのぼり

序曲と変身はこれらのモチーフの組み合わせでできています。さらに、モリスのモチーフは、



いわせておけ

Bt 1の短調変奏です。一幕でモリスがオオカミに襲われるシーンで使用されるほか、二幕冒頭で同じくオオカミに襲われたベルを助けにくるビーストにこのモチーフがあてられていることから、ベルにとって唯一の存在である父の姿、父性をビーストに少しずつ見出していく伏線ではないでしょうか。そしてガストンはふたつ。



マダム

2つ目は次の章で考証します。

2. ワルツでいばろうぜ

ガストンのモチーフは、以下の通りです。



この曲は速い3拍子で、曲の種類としてはワルツに分類されます。実はこのワルツというのはほかのミュージカル作品でみると、ある特定の性格をもったキャラクターが歌う傾向にあることがうかがえます。筆頭に挙げられるのは、『レ・ミゼラブル』のテナルディエです。



そしてあまり知名度はありませんが『ピーターパン』のフック船長。



これらのキャラクターの共通点を見出し、またこの章のタイトルを回収してくれるのが、同じく『ピーターパン』のタイトルロールです。日本語で『いばろうぜ』と訳される曲。



これらの人物の共通点は、空威張りしているという点です。そのこととワルツという音楽との関連性は定かではありませんが、これに『ウエストサイド物語』のマリア（2幕冒頭）を加えたキャラクターたちは、音楽的に一括りすることができるのではないのでしょうか。

3. Transformationの組成

ビーストが人間に戻るときの音楽は、前述のようにそれぞれのモチーフを組み合わせてできています。その順序を見てみると実によく考えられていることがわかります。

Home→Bt 3→運命のテーマ（後述）→Bl 3→Bl 1→Bl 2→Bt 2→Bl 3→Bt 1→
Bt/Bl 2→Bt 3→Bt/Bl 2

ご覧のように、ベルとビーストそれぞれの音楽が絡み合っひとつになっていく、『美女と野獣』のテーマに帰結していくという、なんとも美しい経過をたどっているのです。

◎上級者向けコーナー

この作品の運命のテーマは、ふたつの和声です。『愛せぬならば』の「もはや」という歌詞、「（できぬな）らば」という歌詞についていて、そのほか最後の薔薇が散る瞬間など重要な場面で使用されます。非常にイレギュラーな進行なので耳に残ります。

